

JACLaP WIRE No.49(2002年8月6日発刊)

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.49 です。

\*\*\*\*\*

===== 目次 =====

[お知らせ-1]

会員動向(2002年8月5日現在数 626名, 専門医 422名)

人事 北村 聖 東京大学医学教育国際協力研究センター教授  
園部 宏 国立福山病院研究検査科 科長

第19回臨床検査専門医認定試験が8月2日、3日東海大学医学部で行われた。

会費納入状況の確認について

平成14年度の会費をまだお支払いいただいていない会員がまだいらっしゃいます  
ご自分の納入状況が不明の会員は事務局までお問い合わせください。

FAX: 03-3293-1770 または E-mail: tsuchiya@med.nihon-u.ac.jp

[お知らせ-2]

「日中医学大会2002」の登録締切日せまる

[お知らせ-3]

第22回世界病理学・臨床検査医学会連合(WASPaLM)総会について

[WHOトピックス(Press May 2002 WHO-166)]

エイズ患者300万人は2005年までに抗ウイルス剤の投与が可能になる

[WHOトピックス(Press May 2002 WHO-167)]

新しい癌の報告書によれば患者と社会に希望が持てる

[ICRCトピックス]

リベリアの首都モンロビアに外傷治療センターが開設(2002年7月12日)

[海外トピックス]

中国の臨床検査機器と試薬(2002年7月)

[Q & A]

心エコー中隔 motion の fluttering について

[株式会社じほう提供検査関連ニュース]

【The Medical & Test Journal 7月1日号から】

北臨技 「感染対策ガイドライン - I C P をめざして」を作成

和光純薬 DNAの塩基配列を100%解読受託サービスを開始

自動化学会 論文賞、茂手木優秀演題賞受賞者決まる

【The Medical & Test Journal 7月11日号から】

日医調査 医師会検査センターの約7割が民間検査センターと業務提携

日本検査血液学会標準化委員会 赤血球数測定のパラツキ収束

日本医療機能評価機構 2003年度から診療ガイドライン情報提供

日臨技委員会 検体検査実施料15%ダウン

【The Medical & Test Journal 7月21日号から】

「私立大学病院中央検査部部長会議」が正式発足へ

臨薬卸会長に東康夫氏

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ-1]

会員動向(2002年8月5日現在数 626名, 専門医 422名)

人事 北村 聖 東京大学医学教育国際協力研究センター教授

園部 宏 国立福山病院研究検査科 科長

第19回臨床検査専門医認定試験が8月2日、3日東海大学医学部で行われた。

会費納入状況の確認について

平成14年度の会費をまだお支払いいただいていない会員がまだいらっしゃいます

ご自分の納入状況が不明の会員は事務局までお問い合わせください。

FAX: 03-3293-1770 または E-mail: tsuchiya@med.nihon-u.ac.jp

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ-2]

「日中医学大会2002」の登録締切日せまる

日中国交正常化30周年を記念した「日中医学大会2002」が2002年11月3日~6日まで人民大会堂および北京国際会議センターで開催されます。「臨床検査医学大会2002」は、2002年11月4日の13時30分~17時35分に北京国際会議センターで特別講演、教育講演、指定講演が行われます。18時頃より日中親睦会を開催します。その内容はホームページをごらん下さい[URL: <http://www.jslm.org/taikai2002.htm>]。一

般演題の発表は全てポスターです。発表される方は7月末までに英文抄録文とフロッピーディスクを本学会事務局までお送りください。

「日中医学大会 2002」の旅行手続きについて

基本となるのは「北京3泊4日」と「北京2泊3日」で、延泊やオプションも可能です。今回の旅行は「日通旅行」が主催しておりますので、各自で下記の日通旅行に連絡してお申込み下さい。

(日通旅行 野坂 剛様 電話：03-3573-9336 FAX：03-3573-9339)

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ-3]

第22回世界病理学・臨床検査医学会連合(WASPaLM)総会について

2003年8月30日～9月3日まで韓国のプサンで開催されます。

サーキュラーが送られてきましたので必要な方は学会事務局までお申出下さい。

<http://www.waspalm.org/>

===== JACLaP WIRE =====

[WHOトピックス(Press May 2002 WHO-166)]

エイズ患者300万人は2005年までに抗ウイルス剤の投与が可能になる

WHOの推定では今日600万人のエイズ患者が、抗ウイルス剤を含む治療を必要としている。しかし発展途上国では治療が必要な人のわずか5%以下(23万人)しか治療を受けていない。これらの治療が受けられる人の半数は、ブラジル人である。アフリカではエイズが流行しているが、5万人以下(2%以下)の患者しか抗エイズ剤の治療を受けられない。

WHOでは300万人のエイズ患者が、2005年までに抗エイズ剤の投与が受けられるようになると予測している。WHOでは2002年4月に12種類の抗エイズ剤についての基本的な利用リストを作成し使用法を単純化した。その理由は、エイズ治療のガイドラインが単純化され、どこの施設でもどの医師でも利用できるような治療法になったからである。アメリカでは1996年に3種混合のエイズ療法を取り入れることにより死亡者の数が70%減少した。ブラジルでもエイズ療法により73%死亡者が減少した。

( 獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄 )

===== JACLaP WIRE =====

[WHO トピックス(Press May 2002 WHO-167)]

新しい癌の報告書によれば患者と社会に希望が持てる

各国で現在の知識を利用して癌の予防と治療に経済的な効率を考えれば多数の患者の命を救うことができるという報告書が出版された。そのタイトルは「国内の癌撲滅プログラム：政策と管理ガイドライン」で、世界中で毎年診断される新しい癌患者 1,000 万人のうち 3 分の 1 は予防が可能で、残りの 3 分の 1 は早期発見と早期治療により効果的に治療できる。最後の 3 分の 1 の症例は、効果的な緩和療法により癌の苦痛から開放できると述べている。今までの多くの症例は予防、早期治療、緩和療法が無視されて、治療にのみ重点が置かれ、その治療が実際に経済的效果があるか、患者の QOL を改善しているかについてはほとんど考慮されていなかった。毎年世界で 600 万人が癌で死亡し、1,000 万人の新しい癌患者が発生している。癌は世界中で全死亡率の 12% を占めており、先進国では心臓病に次いで 2 番目に多い病気である。WHO の推測では 20 年後には癌死亡者数が 1,000 万人となり、年間の新しい癌患者は 1,500 万人に増加する。各国が予防、早期発見、診断、医療、緩和療法をバランスよく行うプログラムを作ることにより癌の治療効果はあがる。

( 獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄 )

===== JACLaP WIRE =====

[ICRC トピックス]

リベリアの首都モンロビアに外傷治療センターが開設(2002 年 7 月 12 日)

ICRC(国際赤十字)の援助によりリベリアの首都モンロビアにある JFK 病院に外傷治療センターを設置することになった。病院に隣接して新しいビルを建設し、外傷治療センターに当てるが、これは西アフリカで最も大きな施設となる。リベリアでは 1990 年に内戦が勃発して以来、JFK 病院は一部破壊されていた。手術用の用具はノルウェーから供与され、6 人の医療チームがリベリアに向い 7 月中旬には外科手術が行えるようになる。このセンターでは戦争で負傷した住民を治療するが、最初は 50 床から始め、必要があれば 160 床にまで増床する予定である。リベリアでは外科の施設がほとんどなく、医者の者もわずかに全国で 20 名しかいない。反乱軍との戦闘により多数の病院やクリ

ニックが破壊されている。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

[海外トピックス]

中国の臨床検査機器と試薬(2002年7月)

中国では病院の検体検査の収入が、薬価差益に次ぐ病院収入となっており、自動分析装置の納入台数が激増している。16,000 病院で、累計 4,000 台の自動分析装置が納入されている。これらの製品はほとんどが日本、アメリカよりの輸入品で、生化学検査の自動化率は約 20%と著増している。自動分析機は日立が延べ 1200 台と納入実績は一位で、次いでベックマン、オリンパスの順となっている。使用されている生化学検査の試薬は大部分は中国メーカーの製品で、特殊検査試薬のみが輸入に頼っている。臨床検査件数は全国で約 20 億テスト/年と推定され、生化学検査については、肝機能検査、腎機能検査、高脂血症などの検査では上限が設定され、包括化が行われている。医療費抑制のため、検査の診療報酬が引き下げられ、不要な検査項目の削減など行政サイドからの施策が出されている。北京市では通常の日常検査として用いられている生化学検査の項目は 20~50 項目しかなく、検体検査は全部で約 600 項目しか保険収載されていない。日本と比べ、項目数が少なく、地域ごと、病院ごとのバラツキも大きいようである。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

[Q & A]心エコー中隔 motion の fluttering について

(Q) 基礎疾患高血圧・ホルター PAC 59/1 日。今回動悸あり本人希望にて施行。心エコー EF 70%、IVS 11mm、LVPW 11mm、MR 1°、PR 1°、RVDd 30mm、LVDd 55mm、LVDs 37mm です。Bモード記録中 IVS が震えて描出されていました。ルーチン中調律洞性。考えられる原因を教えてくださいませんか。

(神奈川県 臨床検査技師 経験 8 年)

(A) IVS の細動は大動脈弁逆流(AR)のジェットが IVS に当たっている場合にみられます。AR はなかったのでしょうか。鑑別診断としては IVS の近傍にみられる仮性腱索が駆出

血流によって震えている場合もあります。

(獨協医科大学越谷病院循環器内科教授 林 輝美)

===== JACLaP WIRE =====

[株式会社じほう提供検査関連ニュース]

(株式会社じほうホームページアドレス：<http://www.jiho.co.jp/>)

【The Medical & Test Journal 7月1日号から】

北臨技 「感染対策ガイドライン - I C Pをめざして」を作成

北海道臨床衛生検査技師会はこのほど、「感染対策ガイドライン - I C Pをめざして」を作成した。検査技師の視点から感染防御の対応策を記述したもの。北臨技の前感染免疫検査部門長の高橋俊司氏（市立札幌病院）は、同書の発行について、「検査部をめぐる環境はいぜん厳しい。医療への貢献が求められるなかで、微生物などの専門知識を生かしつつ、チーム医療として院内感染対策を行うための実践書をめざした」という。今後、臨床検査技師は、M R S Aなど耐性菌の検出や環境検査といった感染管理にE B Mを提供するだけでなく、得られたE B Mによって感染管理を実際に行うI C P（病院感染管理者）をめざすことを提案している。

和光純薬 D N Aの塩基配列を100%解読受託サービスを開始

和光純薬工業は、プラスミドに組み込んだD N Aの塩基配列を100%解読する技術を独自に開発、この技術を用いたD N A受託シーケンスサービスを開始した。すでに50を超える検体で、従来法では解読できなかった難解読配列の解読に成功している。解析結果は1週間程度の短期間で返却されるうえ、受託価格は従来法とほぼ同じ。同社が開発したのは「改良転写シーケンシング法」。受託価格は1検体1万5000円。

## 自動化学会 論文賞、茂手木優秀演題賞受賞者決まる

日本臨床検査自動化学会はこのほど、平成 14 年度の論文賞、茂手木優秀演題賞受賞者を明らかにした。論文賞は、「Light Cycler System による APRT 欠損症変異迅速検出法の検討」(松本寮子氏・東北大学医学部附属病院検査部)、「異常反応検出による免疫比濁法 C R P 測定値の信頼性保証」(山本慶和氏・天理よろづ相談所病院臨床病理部)の 2 題。

また、茂手木優秀演題賞は次の 6 題。「ラップトップ型血液分析システム OPTI R の基礎的検討」(東由佳氏・金沢医大病院中央検査部) 「TBA-200FR 自動分析装置における試料詰まり検知 (CLOT センサー) の開発および性能評価」(嶋川淳氏・厚生連佐渡総合病院) 「小児尿中カテコールアミン代謝産物の基準値設定」(原田博子氏・天理よろづ相談所病院臨床病理部) 「糖尿病性合併症誘発因子としてのソルビトール測定の意義に関する研究 - 尿中ソルビトール比色測定法の考案」(藤田孝氏・藤田保健衛生大学病院臨床検査部) 「HBs 抗原・抗体共存症例において検出される HBs 抗体中に抗 “ a ” 抗体は存在しない」(松田留美子氏・昭和大学病院臨床検査部) 「LDH アイソザイムの自動解析システム構築の検討」(石川仁子氏・浜松医科大学病院検査部)。

【The Medical & Test Journal 7月11日号から】

## 日医調査 医師会検査センターの約 7 割が民間検査センターと業務提携

医師会立臨床検査センターと民間検査センターとの業務提携(委託)が進んでいる。日医が調査した今年 4 月 1 日時点での医師会立臨床検査センター(65 施設)運営形態は、医師会単独が 17 施設にとどまり、民間検査センターに全面業務委託を行っているのが 16 施設、一部業務委託しているは 30 施設にものぼり、約 70%の医師会検査センターが民間検査センターとなんらかの業務委託を行うことで経営を維持している実態が明らかになった。日本医師会の柳田喜美子常任理事は「民間検査センターへの業務委託を一概に否定はしないが、ゆゆしき問題だと考えている」との認識を示した。

## 日本検査血液学会標準化委員会 赤血球数測定バラツキ収束

ダイナボットなど6社の自動血球分析装置で測定する赤血球数（ヘマトクリット値、Hb値、赤血球容積など）のバラツキは大きく収束し、病院間での検査結果の共有化が可能になった。日本検査血液学会の血球計数に関する標準化委員会の田窪孝行氏（大阪市立大学大学院医学研究科臨床検査医学）が、これまでの検討結果から明らかにした。白血球分類、網赤血球数の検査値は、まだメーカー間でバラツキがあるが、それが臨床的に影響を与える範囲であるか、今後、臨床医グループとの検討が必要だと述べた。

## 日本医療機能評価機構 2003年度から診療ガイドライン情報提供

日本医療機能評価機構（館龍一郎理事長）はこのほど、厚生労働省から受託した「E B M医療情報サービス事業」を開始し、2003年度の早い時期に、根拠に基づく診療ガイドライン（G L）が策定された疾患から、情報提供していく方針を明らかにした。今年度はG Lを評価選定する委員会設置などの準備期間とし、03年度から厚生科学研究で報告されている20疾患の診療G Lを評価選定し、データベース化して情報提供を開始する。05年度末までに主要60疾患の診療G Lを評価し、一般臨床家向け、国民向け、専門家向けにそれぞれ情報提供をする方針だ。厚生科学研究費補助金が確保される05年度までは、無料で情報提供する。

## 日臨技委員会 検体検査実施料15%ダウン

日本臨床衛生検査技師会の診療報酬制度対策委員会はこのほど、4月の診療報酬改定に対する総括を行い、岩田進会長に文書を提出した。検体検査実施料の引き下げでは、15%前後のダウンになっているとし、実施料の引き下げに歯止めをかける具体的方策を考えなければならないと指摘した。特定機能病院などが算定する基本的検体検査実施料の包括化は変わらないが、約8%の引き下げになったほか、血液化学検査、腫瘍マーカーなどの包括項目点数も全て引き下げられた。なかでも微生物検査は、前回の改定と同様に実施料が引き下げられた一方で、院内感染防止対策の未実施減算の施設基準がM R S A中心であったのが検査部(科)で検出される全ての菌種に拡大された。

【The Medical & Test Journal 7月21日号から】

「私立大学病院中央検査部部長会議」が正式発足へ

私立大学医学部附属病院の中央検査部部長会議が、正式に発足することが決まった。7月13日、昭和大学医学部附属病院（五味邦英院長）が当番校で開かれた私立大学医学部中央検査部部長・技師長会合同会議で了承された。これは日本臨床検査医学会の櫻林郁之介会長（自治医大大宮医療センター教授・部長）、渡辺清明副会長（慶応大学病院教授・部長）から示された、「厳しい病院経営環境に対応するためには、全国国立大学病院中央検査部会議などと足並みをそろえて対内外活動を活発化することが重要。私立医科大学中央検査部部長会議を正式な組織として発足させるべきだ」との提案を受けて具体化したもの。会長などの役員人事や規約などは今後検討される。

臨薬卸会長に東康夫氏

日本臨床検査卸協議会はこのほど総会を開き、新会長に東康夫氏（東北化学薬品社長）、副会長に酒井祐造氏（鍋林フジサイエンス社長）、福田誠氏（アテスト社長）がそれぞれ新任された。秋葉芳夫副会長（東邦薬品営業本部長兼検査薬営業部長）は再選された。

-----  
=====

JACLaP WIRE, No.49 (2002年8月6日発刊)

発行：日本臨床検査医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読（配信）・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

e-mail : jaclap\_wire@yahoo.co.jp

TEL:045-787-2721

FAX:045-786-0392

日本臨床検査医会ホームページ：<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

-----

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

氏名 現行登録アドレス 変更希望メールアドレス両方を添えて  
jaclap\_wire@yahoo.co.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*